社会資本総合整備計画(第2回変更)

茜が丘・野村西地区都市再生整備計画

平　成　26　年　10　月

兵　庫　県　西　脇　市

社会資本総合整備計画

平成26年10月14日

計画の名称	茜が丘・野村西地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成　24　年度　～　平成　27　年度　（　4年間）	交付対象	西脇市

計画の目標

本地区は、市の玄関口であるJR西脇市駅の西側に広がる、小学校から高校まで４つの学校を有する文教地区であり、市の教育文化の拠点地域である。また、本地区は、人口減少の進む本市において唯一の人口増加が見られる地区となっているが、多様な世代の交流によるまちづくり活動の支援や子育て世代を支援する機能の確保が課題となっている。

そのため、本地区内に図書館、地区コミュニティセンター、子育て支援施設等からなる複合施設を整備することで、文教地区にふさわしい公共施設を集約させ、都市機能の向上を図り、誰もが住みよいまちづくりを推進する。

計画の成果目標（定量的指標）

・図書館の整備により、市民の生涯学習活動等を支援するため、図書館年間貸出人数を増加させる。
・地区コミュニティセンターの整備により、コミュニティの活性化を図るため、地域活動等に参加する市民を増加させる。
・複合施設の整備により、多様な世代の交流によるまちづくり活動を進めるため、施設の利用者を増加させる。
・子育て支援施設の整備により、子育て世代等の支援を行い、子どもが健やかに育つことのできる環境づくりを進める。

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H24年10月）	中間目標値（H　末）	最終目標値（H28年度末）	備考
1.図書館の年間貸出人数（図書館貸出データにより把握する）	32,591人／年	－	100,000人／年	※図書館の年間貸出人数はH23年度末データ
2.地域活動等に参加している市民の割合（市民アンケートにより把握する）	57.5%	－	65.0%	
3.複合施設の利用者数（利用者数の調査を行う）	0人／年	－	200,000人／年	
4.住んでいる地域では、子どもたちが健やかに育っていると感じる市民の割合（市民アンケートにより把握する）	75.4%	－	80.0%	

全体事業費	合計（A＋B＋C）	2509百万円	A	2229百万円	B	0百万円	C	280百万円	効果促進事業費の割合 C／（A＋B＋C）	11.2%

交付対象事業

A1　基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費（百万円）	備考
1-A-1	都市再生	一般	西脇市	直接	西脇市	茜が丘・野村西地区都市再生整備計画事業	計画面積139ha	西脇市	━	━	━	━		2,229	別添1
											合計			2,229	

B　関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費（百万円）	備考
											合計			0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

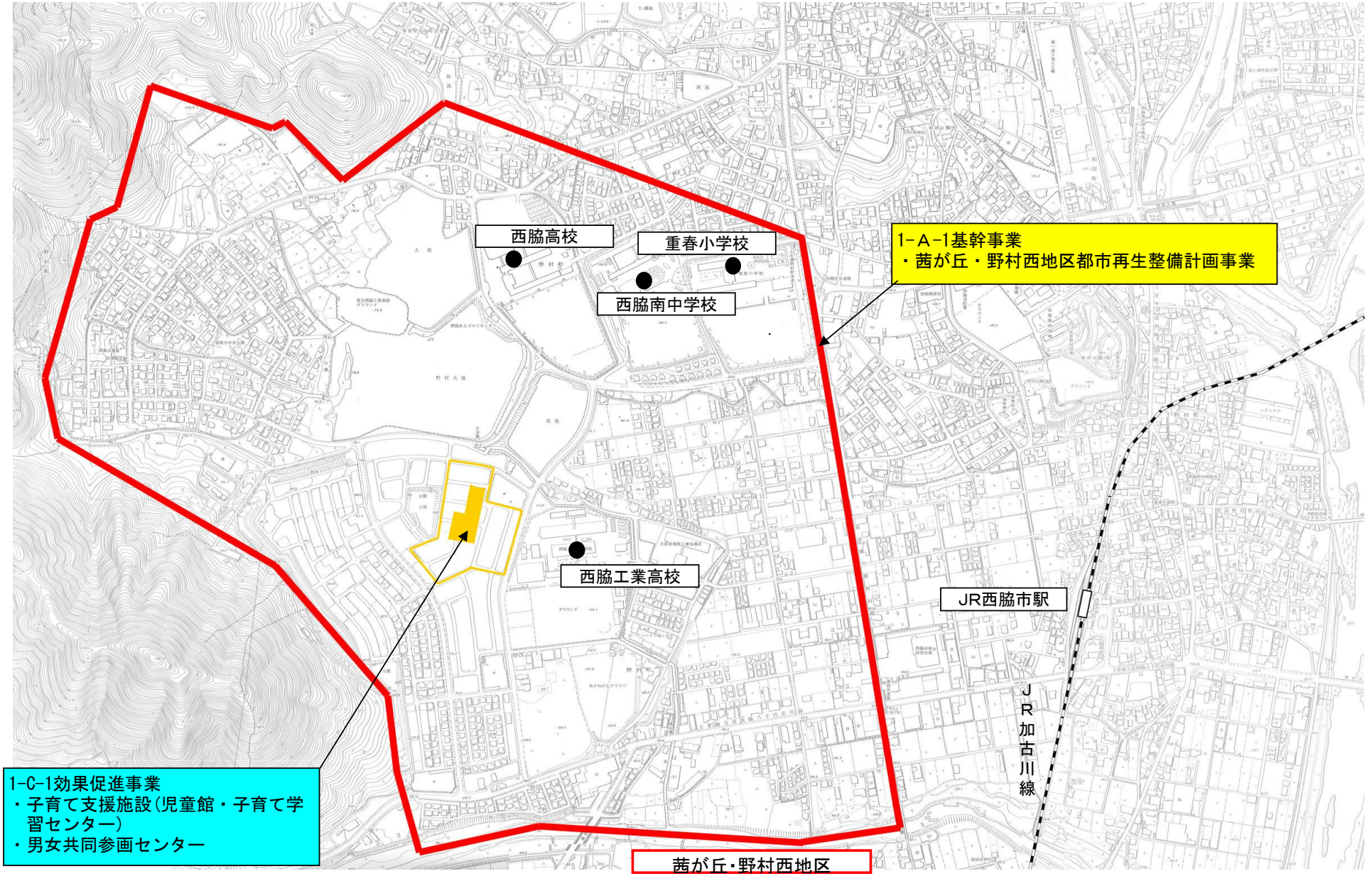
C　効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度） H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費（百万円）	備考
1-C-1	施設整備	一般	西脇市	直接	西脇市	茜が丘複合施設整備事業（子育て支援施設/男女共同参画センター）	子育て支援施設981㎡、男女共同参画センター45㎡	西脇市	━	━	━	━		280	
											合計			280	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	1-A-1で実施する施設との複合化によって、効率的な整備と運営が図られる。また、各施設間の事業連携による相乗効果が期待される。	

（参考図面）

計画の名称	茜が丘・野村西地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成24年度　～　平成27年度　（4年間）	交付対象	西脇市



別添1

都市再生整備計画(第2回変更)

茜が丘・野村西地区

(地方都市リノベーション事業)

兵庫県　西脇市

平成26年10月

様式1　目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	西脇市（にしわきし）	地区名	茜が丘・野村西地区（あかねがおか・のむらにし）（地方都市リノベーション事業）	面積	139　ha

計画期間	平成　24　年度　～　平成　27　年度	交付期間	平成　24　年度　～　平成　27　年度

目標

大目標：教育文化の充実による文教地区の再生と魅力向上による誰もが住みよいまちづくり
目標1：新しい「知の拠点」から広がる文教地区の魅力向上と活性化
目標2：子どもの成長と子育て世代をみんなで支える地域づくり
目標3：多様な世代の交流によるまちづくり活動の推進

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針（都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む）

本市の既成市街地は、市街化区域の北東部と南西部に位置し、北東部は商業・業務機能、南西部は文教地区からなる都市構造となっており、昭和30年代から機能分担を進めている。

南西部の既成市街地は、JR西脇市駅を核として、複数の学校や住宅地が連担し、教育文化、公共交通、住環境といった都市機能が一体的に配置されている。そのため、高齢化が進んでいるものの、子育て世代など人口の増加が見られる地区であることから、市全体で人口減少が続く中、定住人口の確保を図るために文教地区としての魅力をこれまで以上に向上させることが求められている。

そうしたことから、南西部の既成市街地に位置する本地区の中に「中心拠点区域」を設定し、子育て支援施設や図書館などを複合施設として集約化し、文教地区として教育文化の充実を図る。

また、複合施設の整備にあわせて、利用者の利便性の向上を図るため、コミュニティバスネットワークの拡充（運行形態の見直しや本数の増加等）を進める。

公的不動産のマネジメント策としては、従前から市町合併に伴う重複施設等の除却や処分、用途変更、統合による保有合理化を行っている。複合施設整備に伴い発生する空き施設（現図書館）には、老朽化が著しい施設の行政機能を移転させ、その除却跡地は隣接する公園と一体的に整備するなど、都市機能の集約と適切な機能分担を図り、公的不動産の保有合理化を一層進展させる。

【経緯】

本地区は、西脇市のほぼ中央部に位置し、田畑がなだらかに連なる地区であったが、昭和30年頃から住宅地開発や学校の集積を進め人口の定着を図ってきた。
昭和30年代から学校を新設・移転し、小学校から高校まで4つの学校を有する文教地区として良好な環境を形成してきた。
市の定住施策として、昭和55年に「西脇ニュータウン緑風台」、平成12年に「茜が丘」を、それぞれ開発し、宅地分譲を進めてきた。
平成2年にJR鍛冶屋線が廃止されたことにより旧「野村駅」が「西脇市駅」に改称され、市の玄関駅となった。

【現況】

市全体の人口が減少する中、本地区は市内で唯一人口が増加傾向にある。また、地区内においては、今もなお市街化が進行（住宅や商業施設の立地）している。
市街地の形成時期・過程の違いにより、本地区内にはオールドニュータウン、ニュータウン、市街化進行区域と特徴の異なる区域が混在している。
近年では複数の自治会合同で夏まつりを開催するなど、コミュニティの一体感醸成に向けた機運が見られる。
子育て世代が多く居住し、学校が近く便利である一方、安心して子どもを遊ばせられる場所が不足している。

課題

学校が複数立地した文教地区の機能強化、魅力向上と活性化のために、多くの市民等に利用される「知の拠点」として図書館機能を加えるとともに、地域との有機的な連携が必要である。

小学生から高校生には、社会学習等の学校教育の質を補完し、より幅広く多様な情報を得やすくするとともに、一般市民に対しては知的欲求や生涯学習活動の機会を提供、時代の変化を捉えたコンテンツやレファレンスサービスの充実を図る必要がある。

子育て世代が増加する中で、子どもの安心できる居場所（遊び場）の確保や子育て支援（子育ての悩み、児童虐待、DVへの対応など）、相談サービスの拡充が求められている。
児童館を必要とする家庭はやむを得ず他市の施設を利用しており、市内に整備を望む声が大きい。

時代の変化に伴い、高齢化、人口減少、人口増加、子育て世代の流入など、地区内に異なった状況が生じてきており、各々に生じる課題の解決に向け、相互補完する必要が生じている。このような地域社会における歪みを修正するため、地域住民のまちづくり活動に期待し、各地区間、世代間の交流拠点を確保するとともに、地域住民のまちづくり活動自体の活性化支援が課題である。
現在のまちづくり活動場所は、空き施設を間借りするなどして対応しているため、安定的に活動場所の確保ができないことから持続的な活動に支障をきたしている。

将来ビジョン（中長期）

【総合計画（平成19年策定）】

茜が丘複合施設の整備、図書館機能の充実・強化、子育て支援拠点施設の整備を図ること等を位置付けている。
地域自治の推進を掲げ、その将来ビジョン（目指す姿）として、『「住んでよかった」、「住み続けたい」と思えるまちを目指し、市民と行政がお互いの責任や役割を分担し、ともに考え、協力してまちづくりに取り組むまち』を設定している。

【都市計画マスタープラン（平成22年策定）】

「土地利用の方針」において、本地区は文教地区として位置づけられ「文教的な環境の維持保全」を推進することとしている。

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方

文教地区の整備にあわせて定住促進に取り組んできた本地区は、少子高齢化、人口減少が進行する西脇市にあって、唯一人口が増加傾向にある既成市街地である。また、地区の南北を通る道路沿いには、商店の立地が見られるなど、一定の生活基盤が整っている。

そうした中、図書館・子育て支援施設（児童館/子育て学習センター）、男女共同参画センター、地区コミュニティセンター機能などを本地区に集約し、教育文化の充実により、文教地区であることの魅力を高めることで、定住人口の確保を図る。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方（民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む）

西脇市における教育文化・子育て支援の中心拠点として本地区に「中心拠点区域」を設定し、新たな「知の拠点」となる図書館や子育て支援施設（児童館、子育て学習センター）、男女共同参画センター、地区コミュニティセンターからなる複合施設を整備し、文教地区にふさわしい生涯学習機能及び子育て支援機能を確保するとともに、地区まちづくり活動の活性化を図る必要がある。

地方都市リノベーションに必要となるその他の交付対象事業等

■道路

複合施設(地方都市リノベーション推進施設等)に隣接する道路について歩道の舗装化及び複合施設の進入路となる道路について幅員を拡幅し歩道を新設することで、道路交通の安全性や施設へのアクセス性を向上させる。

■公園

複合施設に隣接する既存の公園について園路を一部改修し、施設との一体性を高めることで、子どもに安心で安全な遊びの環境や地域住民にふれあいの空間を提供するエリアを形成する。

■地域交流センター

地区内に生じている課題について、住民主体による解決を促していくために、多様な世代の交流やまちづくり活動の拠点として地区コミュニティセンターを整備し、地域コミュニティの再構築を行うことで、文教地区にふさわしい住みよいまちづくりに寄与する。

■広場（子どもの森、芝生広場、多目的広場等）

広場を複合施設と隣接する箇所に整備することで、子どもに安心して遊ぶことのできる場所を提供するほか、地域交流センターとともに、多様な世代の交流を促すふれあいの空間とする。

【相乗効果例】

■図書館と子育て支援施設

・図書館に児童書や子育て関連書籍を充実させることで、子育て世代の課題解決を支援することができ、子育て環境の充実につながる。
・子育て支援施設と一体となった図書館を整備することで、親子での利用がしやすく、子どもだけでなく子育て世代の生涯学習の支援も行える。

■図書館と子育て支援施設と地区コミュニティセンター

・地区の人材を活用した子どもへの読み聞かせや地区独自のテーマによる学習会（例：歴史と文化を伝える会）の実施により、子どもの感受性と情操を培うとともに、地域への愛着を養う。

■子育て支援施設と地区コミュニティセンター

・地区住民と子育て中の親子との様々な交流事業（子どもを預かる、子どもに教える、子どもと遊ぶ、親に伝える等）により、子育てしやすい環境が整い、文教地区としてのまちの魅力向上につながる。
・子どもの見守り等を地区で実施することにより、地域の中での子育て支援の充実につながる。
・地区住民にとっては、活動の場、交流の場が生まれることで、自己の居場所や生きがいづくりにつながる。

目標を定量化する指標

指　標	単 位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
図書館の年間貸出人数	人／年	図書館の年間貸出延べ人数	知の拠点としての図書館の利用状況を評価するため、図書館の貸出人数を把握する。	32,591人／年	H23	100,000人／年	H28
地域活動等に参加している市民の割合	%	まちづくり市民アンケートで、「過去1年間に、地域でのまちづくり活動に参加したことがある」について、「1日以上」と答えた人の割合	地域コミュニティの活性化度合いを評価するため、アンケートにより指標値を把握する。	57.5%	H24	65.0%	H28
複合施設の利用者数	人／年	複合施設の利用者数	教育・子育ての中心拠点の核たる施設として、その活用状況を評価するため、複合施設の利用者数を把握する。	0人／年	H24	200,000人／年	H28

様式2　整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【文教地区の魅力向上と活性化】 ■文教地区における時代にふさわしい新しい「知の拠点」として図書館を整備する。 ・課題解決型の図書館を目指した情報収集と提供を行う。 ・「知的欲求」や「課題解決」のニーズに応えるため、デジタルコンテンツなどの充実と的確なレファレンスサービスを実施する。 ・児童生徒の自己学習のための情報、教員の教材作成のための情報収集と提供を行う。	・図書館（基幹事業・地方都市リノベーション推進施設） ・市道茜が丘3号線（基幹事業・道路） ・市道茜が丘22号線・23号線（基幹事業・道路） ・市道野村12号線（関連事業・交通安全施設等整備事業）
【子どもの成長と子育て世代を支えるまちづくり】 ■子どもの成長と子育て世代をサポートする子育て支援施設（児童館・子育て学習センター）、男女共同参画センターを整備する。 ・安全で快適な子どもの遊び場を提供するとともに、プレイリーダーによる遊びの伝承・創造を行う。 ・父親・母親同士のネットワークを広げるため、子育て学習センターでの親子交流事業を実施する。 ・子育てには父親・母親それぞれが対等なパートナーとして能力を発揮しながら子どもの成長を支えることが必要であることから、男女共同参画推進のための啓発と支援を行う。 ・子育て相談等を実施するため、男女を問わず気軽に利用でき利便性の高い子育て関連の総合窓口を開設する。	・茜が丘複合施設整備事業（効果促進事業／児童館・子育て学習センター） ・茜が丘複合施設整備事業（効果促進事業／男女共同参画センター） ・広場整備事業（基幹事業・地域生活基盤施設） ・野村グリーンヒル第一号公園（基幹事業・公園）
【多様な世代の交流とまちづくり活動の推進】 ■多様な世代の交流、まちづくり活動の拠点として地区コミュニティーセンターを整備する。 ■発災時には、避難場所として使用でき、また、防災備品等の備蓄倉庫として活用できる機能を併置する。 ・住民主体による課題解決能力向上のため、地区まちづくり協議会を主体にした様々な交流活動を通じてソーシャルキャピタルの再構築を行う。	・地域交流センター（基幹事業・高次都市施設） ・地域防災施設整備事業（基幹事業・地域生活基盤施設） ・広場整備事業（基幹事業・地域生活基盤施設）

事業実施における特記事項

【まちづくりの住民参加】
・平成23年度からの取組として、地区の検討委員会と市によって、人材活用・育成まちづくり講座の開催やコミュニティサロンの運営などコミュニティビジネスの展開に向けた検討が行われており、その取組を継続する。

【官民連携事業】

様式3　目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	2,229	交付限度額	1,111.1	国費率	0.498

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
道路		市道茜が丘3号線	西脇市	直	L=73.2m	27	27	27	27	6	6	6		6	
道路		市道茜が丘22号線・23号線	西脇市	直	L=85.9m	27	27	27	27	18	18	18		18	
道路															
道路（地方都市リノベーション事業）															
公園		野村グリーンヒル第一号公園	西脇市	直	5,497㎡	27	27	27	27	10	10	10		10	
公園（地方都市リノベーション事業）															
古都及び緑地保全事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設（地方都市リノベーション事業）			西脇市	直	12,217㎡	24	27	24	27	455	455	455		455	
高質空間形成施設															
高次都市施設（地方都市リノベーション事業）		地域交流センター	西脇市	直	2,409.75㎡	24	27	24	27	680	680	680		680	
地方都市リノベーション推進施設		図書館	西脇市	直	3,692.18㎡	24	27	24	27	1,060	1,060	1,060		1,060	
生活拠点施設															
既存建造物活用事業（地方都市リノベーション推進															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										2,229	2,229	2,229	0	2,229	…A

提案事業（継続地区の場合のみ記載）

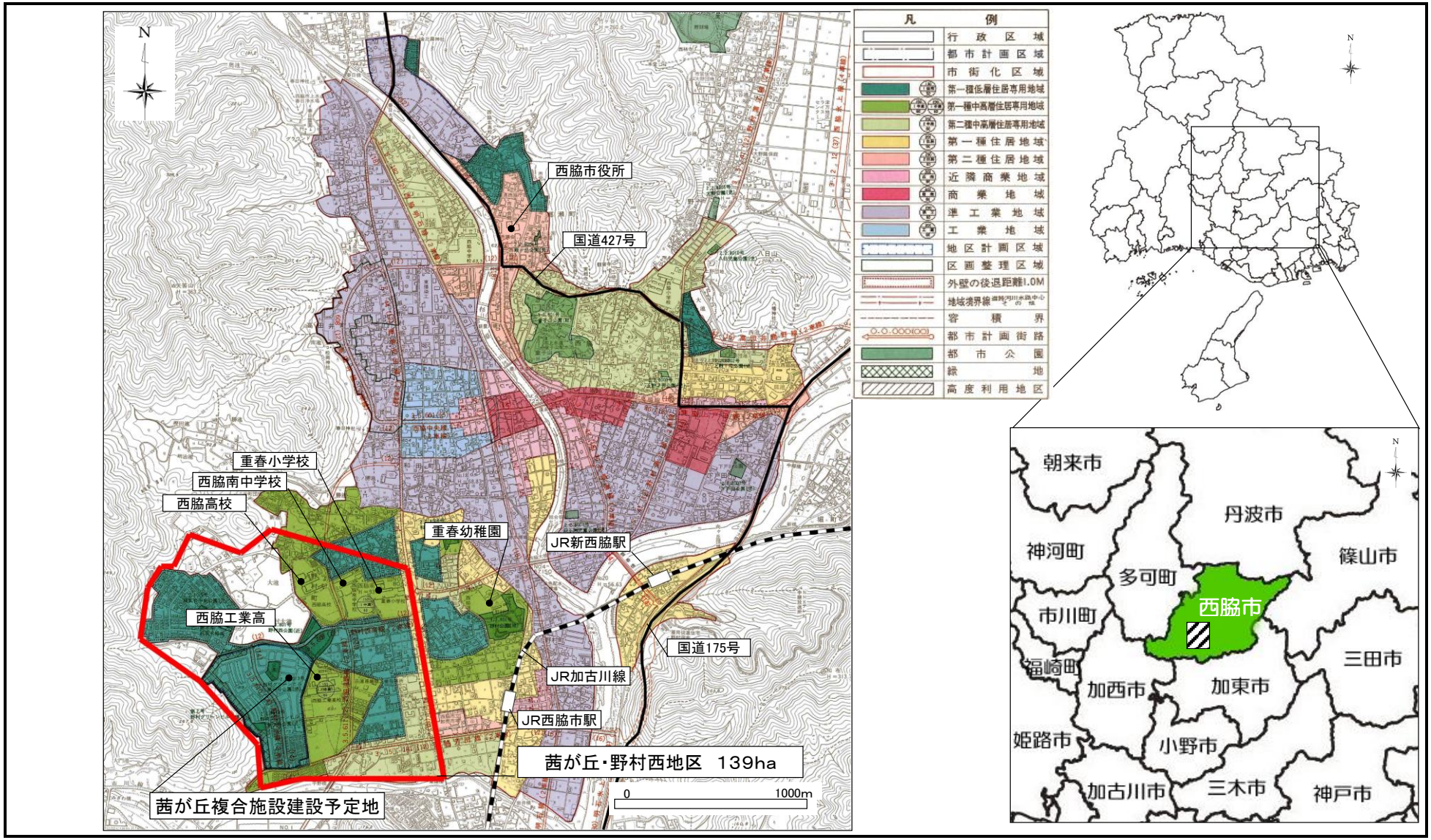
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業															
合計										0	0	0	0	0	…B
													合計(A+B)	2,229	

（参考）関連事業

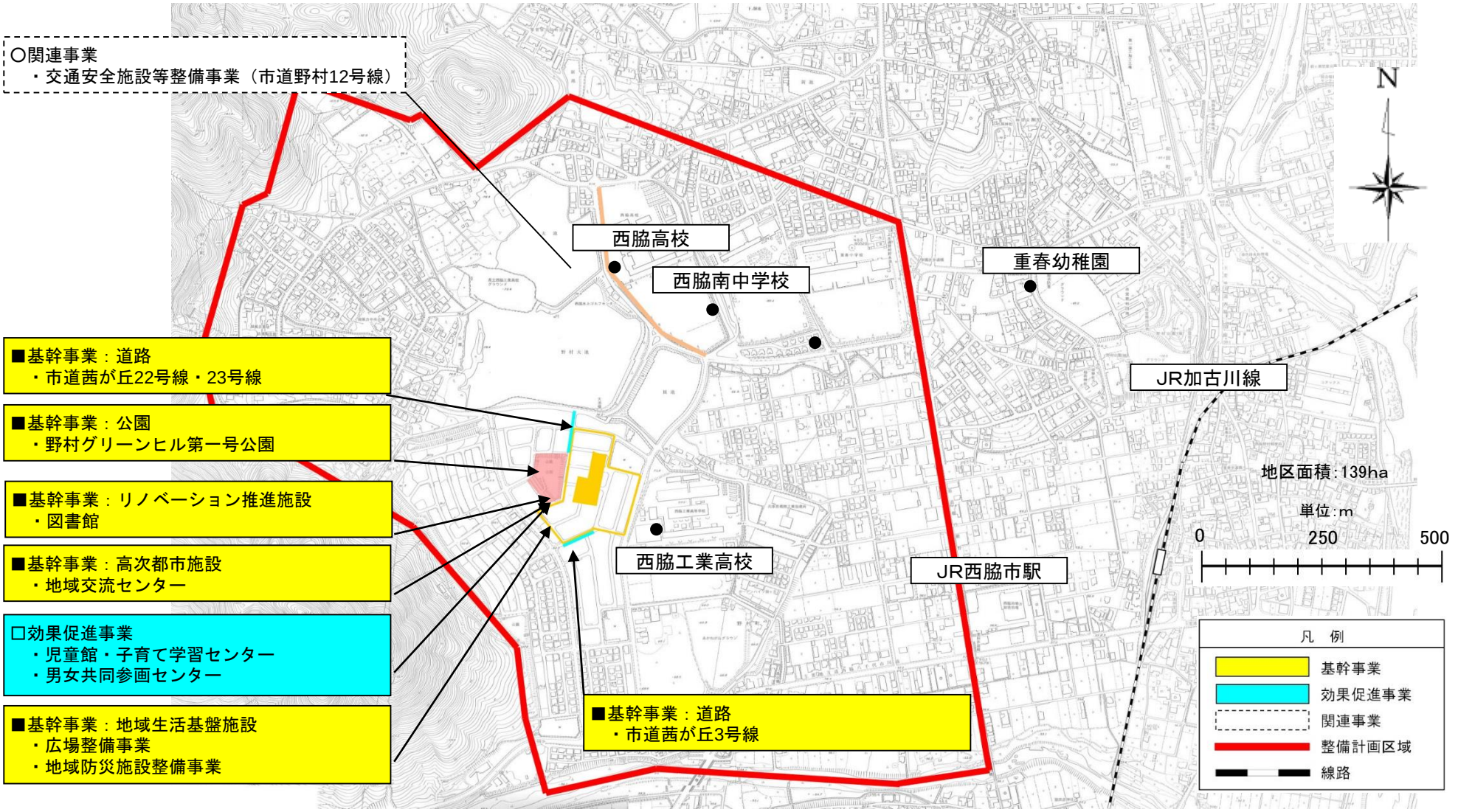
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
交通安全施設等整備事業	市道野村12号線	西　脇　市	国土交通省	L=520m		○			23	25	187
合計											187

都市再生整備計画の区域

茜が丘・野村西地区（兵庫県西脇市）	面積	139 ha	区域	野村町茜が丘の全部、野村町の一部



茜が丘・野村西地区（兵庫県西脇市） 整備方針概要図

目標	教育文化の充実による文教地区の再生と魅力向上による誰もが住みよいまちづくり

代表的な指標						
図書館の年間貸出人数	（人／年）	32,591	（H23年度）	→	100,000	（H28年度）
地域活動等に参加している市民の割合	（　%　）	57.5	（H24年度）	→	65.0	（H28年度）
複合施設の利用者数	（人／年）	0	（H24年度）	→	200,000	（H28年度）